



校訓 『自主 協同 創造』

芦中だより

令和7年7月18日第5号

芦屋町立芦屋中学校

住所：芦屋町中ノ浜 10 番 74 号

電話：093-223-0058

《 文責：石松 誠 》

1学期を終えて

～共に歩んだ一步一步が、確かな成長に～

令和7年度が始まってから、あっという間に1学期が終了しました。新しい学年、新しい仲間、そして新しい自分との出会い…期待と不安を抱えてのスタートでしたが、一人ひとりしっかりと歩みを進め、学校全体が温かく、活気にあふれた1学期となりました。



【入学式】

4月の入学式。

緊張した表情で登校してきた新入生の目には、不安の奥に確かな希望が輝いていました。

続く生徒会入会式・部活動紹介では、先輩たちの温かなまなざしや言葉、真剣な姿に心を動かされた新入生も多かったことでしょう。



【体育大会】

5月の体育大会では、仲間と心を重ね、全力で競技に挑む姿に多くの感動が生まれました。「呼吸の合った行進」「最後まであきらめない走り」「仲間を支える声援」、どの瞬間も“芦中生の絆”がはっきりと形になって見えました。

特に、前日からの大雨に不安を感じながらも、中央廊下に吊るしたてるてる坊主に込めた「明日、晴れますように」という願い。手を合わせ、空を見上げて祈る姿に、胸を打たれました。

その祈りは届き、当日、芦屋中のグラウンドにはまぶしい陽射しが戻ってきましたね。



【生徒総会】

6月の生徒総会では、全校で学校の未来を語り合い、意見を出し合い、真剣に向き合う姿が見られました。君たちの頑張りが、“学校を動かす力”になっていることを実感しました。

さらに、ふれあい学級や、中体連での活躍など、たくさんの“がんばり”が校内のあちこちに刻まれています。



思いどおりにいかなかった日もあったでしょう。でも、その一步一步が、「昨日よりも強くなった自分」を育ててくれています。それが、“善進”自分の声を形にする歩みそのものだったと思います。

この1学期、たくさんの感動で彩^{いろど}ってくれた皆さんへ、本当にありがとうございました。

2学期も宜しくお願いします。



【ふれあい学級お見送り】



折尾愛真高校 出前授業より ～素直さと感謝の心が光る学びの時間(2年生)～



7月、折尾愛真高校による出前授業が行われ、芦屋中学校の2年生が各講座の実習に取り組みました。今回は、「ビジネス文書」「保育技術」「看護体験実習」「美容実技」「製菓実習」の5つの講座に分かれ、生徒たちはそれぞれの教室で、将来を思い描きながら貴重な体験をすることができました。

その中の一つ、製菓実習での出来事です。

高校の先生方が、これまで各中学校での出前授業のたびに心配されていたのが、衛生面に関するルールです。

とくに「三角巾の中に髪の毛をきちんと入れる」という指示がなかなか伝わらず、準備に時間がかかってしまうことが多かったそうです。なかでも「前髪命!」という生徒にとっては、少しハードルの高い場面になることもあるのだとか。

ところが……芦屋中の2年生たちは、ちがいました。

「前髪も三角巾の中に入れてね」という指示に、誰ひとり抵抗することなく、すぐに受け入れ、さっと身支度を整えたのです。その素直な対応の早さに、高校の先生方も驚かれ、「こんな学校は本当にめずらしいです」と感心の声を寄せてくださいました。

日頃の学校生活の中で培ってきた、「当たり前」のことを当たり前に行う力、そして「人の話を素直に受け止め、行動に移す力」。その一つひとつが、こうした場面でも自然に発揮されていたのだと感じます。また、それぞれの講座においても、真剣に学ぼうとする姿勢や、指導して下さる先生方への感謝の気持ちが随所に見られ、あたたかく、心の通った学びの時間となりました。

追伸…2年生は、外部講師の方々から“なぜか”よく褒められています。(笑)



命を守る夏休みに



皆さんが待ちに待っていた夏休みが、ついにやってきます。しかし、この夏休みを迎えるにあたり、皆さんにどうしても伝えておきたいことがあります。それは、「**命を失ってしまえば、すべてがなくなってしまう**」ということです。

毎年、全国のどこかで、水辺のレジャー中に命を落としてしまう子や、ほんの一瞬の油断で交通事故に巻き込まれてしまう子がいます。その子たちは、皆さんと同じように、楽しく学校生活を送り、何気ない日常を過ごしていた子どもたちです。「そんな、命に係わる出来事が、自分の身に降りかかるはずがない…」きっと、そう思っていたはずです。

だからこそ、お願いします。どうか、自分の命を軽く扱わないでください。危ないと感じたら、迷わず引き返してください。「自分だけは大丈夫」などと、絶対に思わないでください…。

最後に、1年生を対象とした性教育講演会(6月30日)の熊丸みつ子先生のお話を紹介します。

あなたは、「3億分の1」の奇跡の確率で、この世に生まれてきた、かけがえのない存在です。

そして、今あなたの隣にいる子も、同じように「3億分の1」の奇跡の中で生まれてきた、かけがえのない命です。

どんな人にも、生まれてきた意味があり、生きているだけで価値があります。

だからこそ、「自分を大切に、自分を大事に、自分らしく生きること」が何よりも大切です。

もしつらいことがあったら、一人で抱え込まず、誰かに頼ってください。

誰かに助けを求めることは、決して弱さではなく、生きるための勇気です。

どんなに苦しくても、絶対に自分で命を終わらせてはいけません。

命は、一度失ったら、二度と戻ってきません。

東日本大震災で子どもを亡くしたお母さんの言葉があります。

「悩めるのは、幸せなこと。イライラする感情があるのも生きているから。生きているだけで、ありがたいことなんです。当たり前の日常が、実はとても尊く、幸せなものなのです。」

あなたの命は、世界にたった一つしかない、かけがえのない宝物です。

先生たちは、皆さんがこの夏を無事に過ごし、**8月6日(水)の出校日、そして8月25日(月)の2学期の始業式に、元気な笑顔で登校してくれることを心から願っています。**

追記

先日、一年生の男子が『芦中だより』って、校長先生が書いてるんですか?と聞いてきました。「うん、そう知らなかった?」と答えると、「えっ!生徒会長が書いてるんじゃないんですか!?!」とびっくりした返答。私が「え?」と反応すると、「一年生みんなそう思ってますよ!☺️」と……私「そ、そうなん……☹️」。 **みなさん良い夏休みを!!!**



【熊丸みつ子先生】

